

京都府立医科大学附属病院で体幹部定位放射線治療を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

転移性肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療の全国遡及的調査研究へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学は、転移性肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療の全国遡及的調査研究に参加いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で転移性肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

近年、画像診断や血液検査（腫瘍マーカー等）の進歩により、転移性腫瘍であっても、一臓器のみでかつ転移個数も少数の状態で見られることも多くなっています。少数再発/転移状態の転移性腫瘍では、抗癌剤などによる全身療法に加えて、再発/転移部位に対する局所療法（手術、放射線治療等）を加えることで長期生存を得られるとの報告があります。しかし、これまでの報告では少数例での検討であることや一部の症例は除外されているなどの問題もあり、より詳細な検討が必要とされています。

今回、日本放射線腫瘍学会研究課題として、少数再発/転移状態の転移性肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療の全国遡及的調査研究を行い、信頼度の高い治療成績を求め、予後因子を明確にすることを目的として研究を行います。

研究の方法

・対象となる患者様について

2015年6月までに、京都府立医科大学放射線科で転移性肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療を受けられた患者様が対象となります。

・方法について

患者様の診療録を過去にさかのぼって下記項目を調査し、各施設からのデータを研究事務局（東北大学大学院放射線腫瘍学分野）が収集、解析を行います。

〈調査項目〉

-患者背景

年齢、性別、PS（全身状態）、病期、原発癌の種類および病理組織型、原発巣の制御状態、腫瘍径、体幹部定位放射線治療前までの治療、肺外転移巣の有無

-治療内容

照射技法、線量分割、治療期間、化学療法の有無、治療肺部位

-経過

全生存期間、局所制御期間、局所以外の無再発期間、最終状態、晩期有害事象

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、平成28年7月31日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学放射線科

職・氏名： 准教授・山崎 秀哉

電話：075-251-5620